

FLORA of KOCHI

No. 32

The Kochi Prefectural Makino Botanical Garden

探してみよう！ 春編

ヒキノカサ (キンポウゲ科)

Ranunculus ternatus Thunb.

今回の探してみようはヒキノカサです。ヒキノカサはキンポウゲ属の1種で、高知県レッドリスト 2010 (植物編)では絶滅種 (EX) になっています。高知県では 1905 年 6 月に横倉山で山本一氏が採集した標本 (京都大学標本館収蔵) があるのみです。四国の他三県では現存確認箇所が非常に少なく、絶滅危惧 I 類に指定されています。

バイカモを除くキンポウゲ属の仲間は黄色い五弁花をもっています。高知県で確認されているキンポウゲ属 8 分類群のうち、ヒキノカサだけが右の標本 (東京都北区 1932 年科学部同人採集会採集) 写真のように根が一部紡錘形になるという特徴があります。

今回は香川県の状況と特徴などについて香川植物の会の久米修さんにご紹介頂きます。



ヒキノカサ

文・写真 香川植物の会 久米修

私が香川県産ヒキノカサを見たのは、今から 30 年ほど前で、会員の一人が近所の農業用水路に生えていたと持参したものである。先学の話では、昔はそれほど珍しいものではなかったと言う。確かに 1971 年に高松市周辺で採られた標本が残されている。その数年後には、その自生地は改修工事で消滅した。以来ヒキノカサは、香川県で幻の植物の一つになった。ところが 2 年前の 4 月中旬、丘陵部に造られた溜め池の土手で、一面黄色に染まるほど群生しているのに出会った。この土手は、毎年丁寧な草刈りが行われているが、老朽化しており、法裾の所々で漏水が見られる。最初は園芸植物かと疑ったが、種々調べてみるとヒキノカサであった。この溜め池は、何度も調査に来ていたが、花の時期は初めてであった。植物体が小さい事から、花期を外すと見つけにくい様である。隣の愛媛県では、河川堤防の水裏側で見つっていると聞く。未改修の少し漏水している様な古い土手で、草刈りが行き届いた場所が狙い目かもしれない。



紡錘形の根



写真① 光沢のある花弁

写真② 斜面一面に群生



高知県の植物 ニュース

■「絶滅種 (EX)」また見つかる！ ミヤコアザミ再発見

ミヤコアザミ (キク科)

Saussurea maximowiczii Herder

高知県レッドリスト(植物編)2010年改訂版で絶滅とされているミヤコアザミを高知市内で再発見、標本を採集しました。

今回再発見した場所は、高知市神田の棚田(休耕田)の湿った北向きの土手です。ここは高知県植物誌の調査期間中に何回か調査しましたが、これまで気がつきませんでした。今年は、ミズギボウシ、バラギボウシの調査のため頻繁にこの場所に出向いていたこと、昨年草刈がされて生育に適した環境になったことなどが重なって、再発見につながったのではないかと考えています。

最初に見つけた時は根生葉だけしかない状態だったのでミヤコアザミとは気がつかず、「タムラソウかな?」と思っていました。その後、茎が伸びて頭花が出てきた段階でミヤコアザミであることが判明したという次第です。

花の時期が終わって周辺を詳細に調査した結果、そのほかに2か所確認できました。3か所の合計個体数(株数)は33個体で、そのうち15個体が頭花をつけていました。

生育地は棚田の土手で、水田は耕作されていないものの、土手は不定期ですが刈り取りがされており、何とか草地の環境が維持されています。高知市周辺の里山に近い棚田では、そのほとんどがここ5年の間に耕作されなくなったり、水田から畑に転換されており、湿地や二次的な環境に育つ植物にとっては非常に厳しい環境になっています。そうしたなかで、ミヤコアザミの生育が確認された場所の付近は、土地所有者の努力によって草刈りが継続されている場所です。

全個体数の半分弱しか花を咲かせていませんが、今の状態が維持されれば何とか(再)絶滅に至らずにすむのではないかと考えます。(文・写真:坂本 彰)



写真① 根生葉



写真② 生育地の様子



写真③ 開花個体



写真④ 花

牧野植物園では、「四国のスマレハンドブック」を2015年度に出版するため、2013年4月から調査を始めています。四国に産するスマレ科について、高知県植物誌にはない検索表・生態写真を掲載し、初心者にも使いやすいハンドブック形式の図鑑を作ることを目標としています。今回はこれまでの進捗状況を報告します。

植物園では2012年からパラタクソノミスト（準分類学者）養成講座を開講しており、スマレ科については毎年継続してセミナーを行っています。2013年にはセミナー参加者や調査ボランティアと野外調査を数回実施し、計205点のスマレ科標本を収集、当園の標本庫（MBK）に収蔵・配架しています。また、昨年12月に徳島県立博物館標本庫（TKPM）で標本調査をおこない、約2,000点の四国産スマレ科標本を確認しました。この調査により、徳島県の分布状況についておおよそ把握することができました。そして、これまでの文献・標本調査の結果、右表のように分布を整理することができています。

今後の課題としては、次の3点が挙げられます。

- ① ケイリュウタチツボスミレやシチトウスミレ、アツバスミレなど、生育環境によって形態に変異がある分類群の扱い
- ② コタチツボスミレや山陰型タチツボスミレなど、人により分類学的見解が異なる種の実体の把握
- ③ 文献記録しかない種の確認

また、各部詳細写真の撮影、標本が少ない愛媛県・香川県の標本の収集、確認が残っています。

もうすぐスマレの季節がやってきます。調査、標本・写真のご提供等、皆様のより一層のご協力をよろしくお願い申し上げます。

【参考文献】

阿部近一 (1990) 徳島県植物誌. pp.433-441. 教育出版センター
 岡本正枝 (1984) 愛媛県のヒトツバエゾスミレ. すみれニュース 38:8-9
 香川県 (1981) 香川県植物誌 離弁花. pp.33-35. 成光社
 高知県・財団法人高知県牧野記念財団 (2009) 高知県植物誌. pp.330-337. 弘文印刷株式会社.
 林鈴以 (2003) 香川県産スマレ目録. 高知県の植物 17:161-168
 林鈴以 (2004) 雑録シコクミヤマスマレについて. 高知県の植物 18 : 141-145
 林鈴以・新名優 (1998) 四国産スマレ属の研究. 高知県の植物 14:1-33
 山中二男 (1978) 高知県の植生と植物相. pp.312-315. 林野弘済会高知県支部
 山本二郎 (1978) 愛媛県産植物の種類. pp.83-85. 愛媛植物研究会

表中の凡例

- : 牧野植物園標本庫（MBK）に標本があるもの
- : 徳島県立博物館標本庫（TKPM）に標本があるもの
- △: 文献に記録されているもの

表. 四国でのスマレの確認状況

和名	花期	高知	愛媛	香川	徳島
1 キスマレ	5	●	△		
2 キバナノコマノツメ	5-6	●	●		○
3 ツボスミレ	4-5	●	●	△	●
4 アギスマレ	4-6	●	△		
5 ヒメアギスマレ	4-6	●	△	△	
6 タチツボスミレ	3-5	●	●	●	○
7 ケイリュウタチツボスミレ	4-5	●			
8 シチトウタチツボスミレ	3-4	●			△
9 山陰型タチツボスミレ		●	●		○
10 コタチツボスミレ	4-5	●	△	○	○
11 ナガハシスマレ	4-5			△	●
12 ナガバタチツボスミレ	3-5	●	●	●	●
13 オオタチツボスミレ	4-6		△	●	●
14 ニオイタチツボスミレ	4-5	●	●	●	●
15 アオイスミレ	3-4	●	●	△	●
16 スミレサイシン	4-5				○
17 ナガバノスミレサイシン	4-5	●	●	△	●
18 フイリナガバノスミレサイシン	4-5		△		
19 アケボノスミレ	3-4	●	●	△	●
20 シコクスミレ	4-6	●	●		●
21 スミレ	3-5	●	△	○	○
22 ホコバスミレ	4-5	●	△		△
23 アツバスミレ	3-4	△		△	△
24 ホソバシロスミレ	5-6	●	●		○
25 アリアケスマレ	3-4	●	●	○	○
26 ヒメスマレ	4-5	●	△	○	○
27 ノジスマレ	3-5	●	△	○	○
28 コスマレ	4-5	●	●	●	○
29 サクラスマレ	5	●	●		
30 アカネスマレ	4-5	●	●	△	○
31 オカスマレ	3-4	●	△	△	○
32 ゲンジスマレ	4-5		△	△	
33 マルバスミレ	4-5	●	△		○
34 ヒカゲスマレ	4-5		△		○
35 エイザンスマレ	3-5	●	●	●	●
36 ヒトツバエゾスマレ	4-5	△	△		○
37 ヒゴスマレ	4-5	●	●	△	●
38 ヒナスミレ	3-4	●	△	○	●
39 ミヤマスマレ	4-5	●	○		○
40 シハイスミレ	3-5	●	●	△	●
41 マキノスマレ	4-5			△	
42 フモトスマレ	3-5	●	●	△	●
43 ヒメミヤマスマレ	4-5	●	●		○
44 トウカイスミレ	4	●	●		
45 コミヤマスマレ	4-5	●	●	△	○

■平成 26 年度 分類学セミナーのお知らせ

平成 26 年度は下記の内容で分類学セミナーを開催します。年間を通してのお申込み受け付けますので、是非ご参加下さい。

本年度は標本教室は開催しませんが、標本作製について疑問点などがあれば、講師や田邊がお答えします。

場所：本館アトリエ実習室・映像ホール
時間：10:00～12:00

日程	対象植物	講師
4月19日(土)	スミレ科	細川 公子氏 *1
5月18日(日)	イネ科	茨木 靖氏 *2
7月6日(日)	セリ科	瀬尾 明弘 *3
10月5日(日)	キク科 (ヒヨドリバナ属等)	河原 孝行氏 *4

*1 土佐植物研究会 *2 徳島県立博物館
*3 京都大学 *4 森林総合研究所四国支所

◎お申込は、電話、メール(パソコン・携帯どちらでも可)、
FAX、ハガキにて下記までお申込み下さい。
※メールや FAX、ハガキには連絡先をご明記下さい。

メールアドレス：kurahashi@makino.or.jp
ayakom@makino.or.jp

電話番号：088-882-2673(標本庫直通)
FAX 番号：088-882-8635(代表)

■市町村分布表改訂版・同定結果のご送付

牧野植物園では高知県植物誌(2009)の発行以降も、高知県の植物調査・研究を続けています。植物誌の調査ボランティアの方々の熱心な活動や職員による採集、また、寄贈・交換により、2009年以降採集された高知県の標本は約5,700点にのぼります。

それらをまとめ、高知県植物誌(2009)p.749~794掲載の市町村別分布表に新しい標本情報を追加して、「市町村別分布表 2014 年改訂版」を作成しています。4月上旬までにはお届け致しますので、お楽しみに。また、標本を採集・寄贈して下さった方には、同定結果を同封致します(チームの場合には代表の方にお送りします)。

■タンポポ調査・西日本 2015 のお願い

「タンポポ調査・西日本 2010」からはや4年が経ち、今年から再びタンポポ調査が始まります。今年はや予備調査、来年が本調査です。

調査にあたってボランティア登録された方には、ボランティア保険をおかけし、腕章をお配りします。ふるってご参加下さい。お問い合わせは下記まで(担当：伊藤)。

◎メールアドレス：ito@makino.or.jp
電話番号：088-882-2723(教育普及課直通)
FAX 番号：088-882-8635(代表)

■植物に関する問い合わせ

毎週火曜日(休日の場合はその翌日)に植物研究課の田邊、前田が高知県の植物の問い合わせに対応しています。写真では同定できない種類がありますので、押し葉状態(仮押しでも結構です)にしたものを持ち込まれるか、お送り下さい。

植物に関する知識全般への相談は、月・水・金の16時から17時まで、教育普及課の職員が対応しています(Tel:088-882-2723)。

■編集後記

本号は、「探してみよう!春編」でヒキノカサについて香川植物の会の久米修氏に、「高知県の植物ニュース」でミヤコアザミについて坂本彰氏に写真提供・ご執筆をいただきました。厚くお礼申し上げます。

ミヤコアザミもヒキノカサも明るいやや湿った草地に生える植物です。この2種が稀な種であるということは、そのような環境そのものが少なくなったということです。ミヤコアザミが見つかったように、ヒキノカサも耕作放棄地を丁寧に探せば、もしかしたらまだどこかで生き残っているのが見つかるかもしれません。

皆様のご協力により県内の植物の研究は少しずつ進んでいます。なお今後一層のご協力を賜りますようお願い申し上げます。

No.32の発行担当：前田綾子・田邊由紀・藤川和美

★原稿募集中。高知県の植物に関するニュース・トピック
がございましたら、ぜひご執筆をお願い致します。



高知県新記録種リスト

- カネコシダ**[☆] *Diplopterygium laevisissimum* (H. Chrst) Nakai (ウラボリ科ウラボリ属)
文献 山岡和興 2013. 秋澤明の業績をたどる. 高知県の植物 23:109-116.
標本 須崎市, 秋澤明 AKI-0562
- アゾラ・クリスタータ** *Azolla cristata* Kaulf. (アカウキクサ科アカウキクサ属) <帰化>
標本 香南市野市町深淵, 前田綾子・田辺由紀 FOS-002833; 南国市岡豊町, 山ノ内崇志 s.n.; 鴻上泰ほか FOS-001705; 高知市春野町, 山ノ内崇志 s.n.; 溝渕直三 FOS-001070; 高知市池, 山ノ内崇志 s.n.
- オオアカウキクサ**^{*} *Azolla japonica* (Franch. et Sav.) Franch. Et Sav. ex Nakai (アカウキクサ科アカウキクサ属)
標本 四万十市, 田城松幸・田城光子 FOS-000177
- ヒュウガコモウセンゴケ**[☆] *Drosera tokaiensis* (Komiya et C. Shibata) T. Nakam. et K. Ueda subsp. *hyugaensis* Seno (モウセンゴケ科モウセンゴケ属)
文献 早川宗志・濱地秀徳・福田達哉. 2013. F1雑種ヒュウガコモウセンゴケ (モウセンゴケ科) にみられた花器形態の変異. 植生情報 17:43-47. 植生学会.
標本 安田町, 濱地秀徳 HH-030
- シラユキゲシ** *Bomecon chionantha* Hance (ケシ科シラユキゲシ属) <帰化>
標本 香美市物部町笹, 笹岡久子 FOK-603691; 佐川町斗賀野, 倉橋由紀 FOK-614847; 土佐市永野, 坂本彰 FOS-003324; 梶原町梶原東, 中平勝也・田辺由紀 FOS-003222
- オニゲシ** *Papaver orientale* L. (ケシ科ケシ属) <逸出>
標本 高知市, 採集者不明 FOS-002549
- アズキ** *Vigna angularis* (Willd.) Ohwi et H. Ohashi var. *angularis* (マメ科ササゲ属) <逸出>
標本 いの町足谷, 稲垣典年ほか FOK-068537
- ササゲ**[☆] *Vigna unguiculata* (L.) Walp. (マメ科ササゲ属) <帰化>
標本 安芸市土居, 堀内和美ほか FOK-068858; 高橋眞起 FOK-605309; 香南市吉川町吉原, 高橋眞起 FOS-005532; 高知市春野町東諸木, 坂本彰 FOK-615795; 土佐市用石, 坂本彰 FOS-000693
- アカササゲ**[☆] *Vigna vexillata* (L.) A. Rich. var. *tsusimensis* Mastum. (マメ科ササゲ属)
標本 四万十町向川, 黒岩和男ほか FOK-069474
- トケイソウ** *Passiflora caerulea* L. (トケイソウ科トケイソウ属) <逸出>
標本 越知町越知丙, 大倉浩典 FOS-000596; 越知町, 大倉浩典 FOK-613100, FOK-615147; 四万十町米奥, 中平謙一 FOK-605673
- シキザキベゴニア** *Begonia cucullata* Willd. (シュウカイドウ科シュウカイドウ属) <逸出>
標本 大豊町大西, 稲垣典年ほか FOK-070344; 大豊町落合, 前田綾子・田辺由紀 FOS-003533, FOS-003534; 南国市萩野, 穂岐山耕造 100; 宿毛市山北, 田城松幸ほか FOK-079052
- ハゴロモジャスミン** *Jasminum polyanthum* Franch. (モクセイ科ソケイ属) <帰化>
標本 越知町, 大倉浩典 FOS-001005
- コショウハッカ** *Mentha × piperita* L. (シソ科ハッカ属) <逸出>
標本 香南市野市町上野, 川村恒介 FOK-615216
- ツリガネカズラ** *Bignonia capreolata* L. (ノウゼンカズラ科ツリガネカズラ属) <逸出>
標本 香南市夜須町手結, 坂本彰 FOS-002690, FOS-003326; 川村恒介 FOS-004501
- チョウセンノギク** *Chrysanthemum zawadskii* Herbich subsp. *latilobum* (Maxim.) Kitag. var. *latilobum* (Maxim.) Kitam. (キク科キク属)
標本 いの町, 鴻上泰ほか FOS-001896; 梶原町, 下村憲一郎・下村公水 FOS-003642
- タカネニガナ** *Ixeridium alpicola* (Takeda) J.H. Pak et Kawano (キク科ニガナ属)
文献 大平豊. 2011. 四国産植物短報 (6). 高知県植物誌 (2009) の補遺等を中心に. 高知県の植物 22:23-30.
標本 いの町, 大平豊 FOS-002877, FOS-002880
- ブライダルベール** *Gibasis pellucida* (Martens et Galeotti) D. R. Hunt (ツユクサ科ギバシス属) <逸出>
標本 香美市物部町, 山岡和興ほか FOK-072100; 香美市物部町根木屋, 前田綾子・田辺由紀 FOS-003432; 高知市曙町, 中川さやか 97; 高知市針木北, 坂本彰 FOS-004932; 須崎市押岡, 黒岩宣仁ほか FOK-024157; 仁淀川町大崎, 山岡和興ほか FOK-030776; 四万十町米奥, 中平謙一 FOK-613060

※ 外国産で定着していると考えられるものについては<帰化>、栽培種の一時的な逸出と考えられる種については<逸出>と示した。

* : 本来の自生であるか、帰化または国内帰化であるか検討中。

☆ : 写真掲載種。



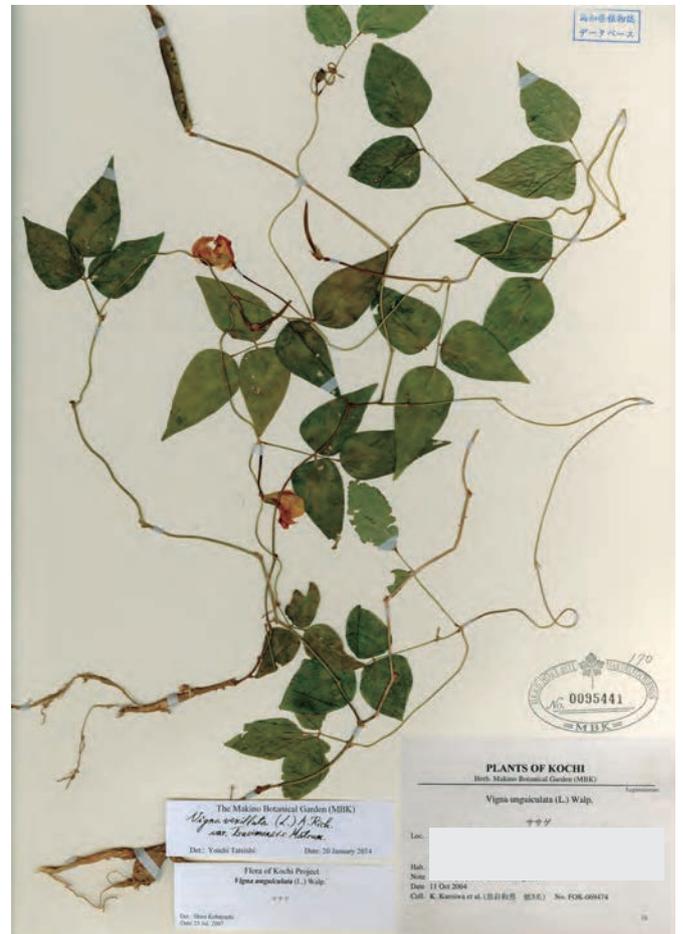
カネコシダ (1928年12月 須崎市採集)



ヒュウガモウセンゴケ (2002年5月または6月 安田町採集)



ササゲ (2002年9月 安芸市採集)



アカササゲ (2004年10月 四十町採集)